

誰もが抱える悩みをパワッと解決！



早稲田アカデミー
教育事業本部副部長
福田 貴一

福田貴一先生の 福が来るアドバイス

精神的な成長の途中にある小学生に、中学受験に向けた学習指導をしていくのは、中学生や高校生を指導するのとは別の難しさがある、と感じます。学習内容のポイントを伝える以外にもいろいろな点に留意する必要がありますし、大人にとって「よい」とされている方法が必ずしも効果的だとは限らないからです。今回は、私が中学受験の指導をするなかで注意している点について書かせていただきます。

「難しい」問題を「わかりやすく」教える ～苦手をしっくらない学習指導～

「難しい」と感じて当たり前

中学受験に向けた進学塾での学習は、お子様の成長段階を考えると、「難しい」内容になります。それを教えるときには、授業に参加している生徒の視点や考え方に合わせて、なるべく噛み砕いてわかりやすく教えることが必要になります。当たり前といえば当たり前ですが、最初のことなので、ただテキストの内容をそのまま教えるだけでは、決して「わかりやすく」はなりません。もしテキストを読んで完璧に理解できるのであれば、塾に通って教わる必要はないわけです。お子様が自分で読んだだけではきちんと理解できない内容をわかるように教えること、つまり「難しい」ことをわかりやすく「教える」ことが、私が授業を行う際に心掛けていることの1つです。

では、どのように教えれば「わかりやすく」なるのでしょうか。私は、最も大切なのは小学生の「内的状態」を理解することだと思っています。目の前にいる生徒が、これから学ぶ単元についてどのような知識を持っており、どの切り口から説明をすれば「わかる」のかを考えることから、授業の準備を進めます。細かい点ですが、授業で使う言葉にも気を付けるようにしています。

例えば、小学4年生の国語で「主語・述語・修飾語」を学びます。この単元を学ぶ前に、生徒たちには「文節」についても説明しているのですが、「主語を修飾しているのはどの「文節？」」というような発問をしてみましょうと、生徒によっては「文節ってなんだっけ……？」と、学んでいる単元とは別のところでもわからなくなってしまうのです。

ご家庭でお子様に教える際も、ぜひ「難しい」ことをわかりやすく」という点にご留意いただくとよいと思います。どのように「噛み砕く」とわかってくれるのか……そんなふうに考えることで、お子様との距離も縮まっていくはずですよ。

一方で、塾の授業では、クラスや生徒の到達度に応じてわざと少し難度の高い言葉を使う場合もあります。思考力や語彙力を高めるために、もしくは「ちょっと難しいことを教えてもらったら」という気持ちになってもらうために、あえてその学年としては難しい言葉を使うこともあるとご理解ください。

「難しい」という言葉を使わない

一度「難しい」と感じてしまうと、お子様の

なかに「苦手意識」が生まれてしまうことがあります。「この単元は難しいから、自分には無理」となってしまつと、その意識を払拭するのはそれほど簡単ではありません。できれば、最初の段階で苦手意識を持たないように教えたいところです。

以前、小学5年生の基礎クラスの算数を担当していたときに、「速さ」「旅人算」という単元を教えました。ご存じの方も多いと思いますが、「速さ」は中学入試では頻出で、さらに出題パターンの幅が広いことから「難しい」といわれることの多い単元です。なかでも「旅人算」は、2人以上が登場して「出会ったり（すれ違ったり）」「追い越したり」するうえに、「ダイヤグラム」も登場してくるので、特に「難しく」感じて苦手とする生徒が多い単元です。この単元を教え

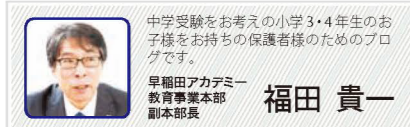
るにあたり、私が最も心掛けているのは「旅人算を嫌いにさせない、好きにさせる」ということです。

といつても、教え方そのものは極めて「標準的」で正攻法なものです。ただ、一つ注意したのは、「難しい」「大変」という言葉は使わずに、なるべく「簡単だよ」「教えたことを思い出せばできるよ」と声を掛け続けることでした。

「自分は勉強が得意だ」と思っている生徒にとっては、「ちょっと難しいけれどチャレンジしてこらん」という声掛けが効果的です。「よし、やってみよう」という気持ちで真剣に考え始めることができるでしょう。一方で、「勉強が得意ではない」と思っている生徒、言い換えれば「勉強に対する自己肯定感」がまだできあがっていない生徒にとっては、「難しい」という言葉は、問題に取り組みするための「ハードル」になってしまいます。「この問題は難しいのか、じゃあ自分にはちょっとムリかも……」と感じてしまつと、そこで頭の回転が止まってしまうのです。

みんなの好きな旅人算

もうひとつ気を付けたのは、問題の解説をするときには、常に速さの基本となる「考え方の確認」から進めるようにしたこと。どの科目のどの単元でもそうなのですが、基礎・土台の部分をあいまいにしか理解していないために、応用的な考え方ができなくなってしまうことがよくあります。もしくは、応用的な考え方はできていても、基礎があいまいなために正解にた



著書に『中学受験 身につくチカラ・問われるチカラ』（新星出版社）。ブログでは、学習計画の立て方、やる気の引き出し方、テストの成績の見方、学校情報など、中学入試に関するさまざまなことについて書いています。

詳細はWebをご確認ください。
早稲田アカデミー 検索



左の二次元コードを
読み込んで
ご確認ください

スマートフォンの対応